

腰痛を患って

朝、顔を洗っていて急に腰の力が抜けるような痛みに襲われた。今迄にも何回となく腰痛に悩まされていたが、その都度、けんいん牽引したりコルセットを装着し数日で痛みが治まっていた。

今回ばかりは痛みが強く、坐薬を使うことにした。診療の時、患者さんの腰痛に対し「痛みが取れない場合使うように」と、坐薬の使用を指導していたが、自分で使うのは初めてのことだった。挿入直後の違和感に改めて患者さんの気持ちが分かる気がした。必死の思いで横になっていたが、痛みはなかなか治まらず、非常な不安を覚えた。

心配そうに腰を指圧しようとする妻や子供達に、「急性期は安静が大事だから・・・」と断って様子を見ていたが気持ちは焦るばかり・・・。痛みは軽減するどころか右下肢のしびれが強くなり、腰痛も我慢できない状態に、妻が見かねて指圧してみようと言う。恐る恐る妻の言うまま体を預け、しばらく指圧を受けた。足のしびれも幾分良くなり、腰痛も軽くなってなんとかその夜は眠ることができた。

翌朝、患者さんの診療の前に牽引してもらおうつもりで、いつもより早く病院に向かった。その後、何回も痛み止めを内服しながら過ごしたが、腰痛は治らなかった。私にとって長い一日に感じられ、不自由な姿勢で過ごしていた夕方、妻から電話をもらった。友達に「お医者さんに対して失礼かもしれないが、騙されたと思って一度〇〇治療院に連れて行って、マッサージ・鍼（はり）・灸（きゅう）をしてもらったらどうか」と言われたのでこれから迎えに行く、という内容であった。妻にとっても、居ても立ってもいられない一日だったようである。痛みもあり、不安も強かったので半信半疑の気持ちで、迎えに来てくれた妻と一緒に訪ねることにした。

診療室では中年の女性がマッサージを受けている最中だった。言われるままにベッドに横になり、マッサージ・鍼・灸を受けた。初めての経験であり緊張していたが、「眼が疲れている。便秘も」等と話しかけられているうちに幾分気持ちが和らいできた。お灸の時、奥さんが部屋に入って来て手際よく助手を務めていた。この時初めて治療師が全盲であることを知らされ、慣れた動きに驚いた。指先の温かさを感じながら、ふと以前、外来である患者さんが私の腰痛を気遣って『神秘の骨・仙骨に無痛ショックを与えると病気が消える』という本を送ってくれた事が思い浮かんだ。その時彼女は、「西洋医学も良いと思いますが、東洋医学は手で触れながら病気を治すんです。先生！ゴルフは腰に好くありませんって！」と言って帰って行った。

診察室で痛いと言えられると「それではこの薬を使ってみましょう」と、忙しい外来とはいえ、処方だけで済ますことが多い自分が急に恥ずかしく思えた。

周囲の人々に心配をかけたこの度の腰痛。この経験はこれからの医療行為に少し役立つような気がする。